

令和 5 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム満天 1号館

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373100460		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	グループホーム満天 1号館		
所在地	〒028-7906 岩手県九戸郡洋野町中野第3地割38番地189		
自己評価作成日	令和5年9月28日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全かつ快適に暮らすことの出来る共同生活の場を提供するとともに、明るく家庭的な雰囲気を心掛け、利用者が「その人らしく生活できる場」をモットーとしたサービスの提供に努めている。職員で考えた理念「あなたのままに心のままに のびやかに」に添い、利用者個々のそのらしさをあるがままに受け止め、利用者が押し付けられたという気持ちにならないよう、その人のペースに合わせ、考えに共感し、職員・利用者と共にのびのびと生活するを大切にしている。現在も新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、さまざまな行事や活動を制限している。そんな中でも職員一同アイデアを出し合い、楽しく日々の生活を送っていただけるよう支援を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は同一法人の介護老人保健施設に隣接し、食事の提供を始め、看護師や理学療法士の対応、災害時の避難場所など互いに連携しながら安心・安全な介護の提供が実践されている。開設時職員で検討し定めた理念「あなたのままで、心のままに、のびやかに」を念頭に、利用者一人一人の思いや願いを大切に、尊厳を持ってその人らしい生活が送れるようなケアに努めている。隔月の情報紙に加え、担当職員が生活の様子を写真を添えた手紙で毎月家族へ届けており、家族からの厚い信頼・感謝に繋がっている。コロナ禍で近隣の方や子どもたちとのふれあいに制約があるものの、コロナ明けに向けた状況を見据えながらこれからの取り組みを模索しており、利用者の生活の更なる充実が見込まれる。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月16日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたのままで、心のままに、のびやかに」という理念は、職員で考え事務所に掲示し、いつでも目に触れるようにすることで、意識しながら日々の業務に努めている。職員間で意見が食い違う場合も理念を共有することでお互いの考えを近づけるようにしている。	開設当時、職員で話し合っ決めて「あなたのままで、心のままに、のびやかに」の理念を事務所に掲示するとともに、手帳の冒頭に書き込むなど、常に念頭に置きながら介護にあたっている。理念を踏まえた具体的なプロセスとしての年度事業目標も定めており、職員一体となって実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍前は、認知症カフェ、敬老会、保育園行事、地域のお祭りにも参加し交流を図っていた。今年に入ってからは徐々に地域の行事等にも行く様になり、運営推進会議も地域の民生委員の方に参加していただき地域との連携を図っている。	町内会に加入し、広報等は回覧板で届いている。コロナ禍で制約があるが、地域の団体が伝統の踊りで優勝し、来所して披露してくれるた。コロナ禍以前は「認知症カフェ」を開催して地域の方々に集まってもらっていたこともあり、コロナ禍明けに向かっての取り組みを模索している。	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、認知症カフェや夏祭りの復活など、近隣の方々との交流再開に向けた検討を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は、認知症カフェを開催し、認知症についての勉強会や介護に関する支援方法や悩み相談等行える場を作っていた。入居申請の相談に来られた方に対しても、現状に合った対応や支援の方法等を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や利用者様ご家族に参加していただき、会議で出た意見を参考に全職員に周知し、業務改善に前向きに取り組んでいる。	会議には本人や家族も加わり、地域包括支援センターの職員、地域の民生委員などで構成されている。一時書面会議としていたが、現在は集合形式での開催となっている。委員からの質疑も活発であり、議事録を玄関に掲示するなどの工夫もある。警察や消防などの専門家の出席についても前向きに検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して下さる市町村担当者や地域の民生委員の方と情報交換をおこなうようにしている。 入退居時は地域医療連携室と連携・協力し合いながら、相互の協力関係に努めている。	町立国保病院の地域医療連携室とは入退居時、相互に連携協力しながら円滑に実務を進めている。また、振興局とは生活保護のケースワーカー、社協とは成年後見制度活用などで連携しており、町を始めとして各関係機関との良好な協力関係が築かれている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム満天 1号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	知らなかったという事が無いよう、定期的に勉強会を実施し、身体拘束防止に取り組んでいる。利用者様の行動も拘束しないよう、床センサーの設置や扉に鈴を付けたり、工夫し対応している。	「身体的拘束等の適正化のための指針」が定められ、2カ月毎の運営推進会議とともに身体拘束等適正化委員会が開催されている。併せて職員研修会も開催され、例えばスピーチロックでは、具体的な言い換えについて職員が互いの話し方について注意すること、利用者に対して曖昧に答えられないことなどを研修に取り入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会をおこない、意見交換したり、日常の中のどのような事が虐待に繋がるのかを意識している。言葉使いはもちろん、表情にも留意し対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で開催できなかったが、今後は、研修会や勉強会を設けて学ぶ機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設側の一方向的な説明とならないように常に気を付けている。契約時の説明は、こまめに疑問や不安な事が無いか確認をおこないながら説明している。後日、改めての確認もするよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ご家族にお手紙で日頃の様子等をお伝えしたり、オンライン面会時や電話でお話した際には、ご意見や要望等を聞かせて頂いている。運営推進会議には毎回違うご家族に参加して頂き、情報交換をおこなうよう努めている。	「満天だより」を隔月発行し、担当職員が手書きの手紙に写真を添えて毎月家族へ届けており、感謝の言葉が絶えない。運営推進会議に家族代表が交代で出席してもらっている。「好みの食物」や「墓参り」等の要望にはできるだけ対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話し易い環境を作ってもらっている。	毎月のカンファレンス、不定期の職員会議などの場で職員からの意見、提案を聞いている。個人面談の機会が無いものの、外部研修や勤務時間のことなどを個別に聞き、相談しながらの対応となっている。職員の人数に余裕がないこともあり、今後については検討課題となっている。	職員との個別面談を行うことが就業環境に良い効果があるものと見込まれるので、検討することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況等を把握してもらい、少ない人数にも関わらず、無理なく業務に当たらせてもらっている。急な休みにも対応していただいている。給与基準の細分化が必要と考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員数が少なく、管理者が一般介護職を兼務せざる負えない状況であり、日頃、顔を合わせられる体制を整備できておらず、現在、困難な状態である。オンライン研修会や講座等を活用していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で出来ない状態である。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報、ご本人からの要望等を聞き、安心して過ごしていただけるよう、傾聴を積み重ねて信頼関係を築けるよう努めている。日々の利用者様の言動の変化などにも気付き対応が出来る関係づくりも大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時等、ご家族の不安や要望を受け止めるよう努めている。来設しやすい雰囲気にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	資金面も含め、グループホームで支援する方が良いのか、同法人の老健を含め他サービスで対応した方が良いのか、住み慣れた自宅での生活は難しいのか等、十分に検討、相談するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事、やりたい事を見つけ出し、負担にならない程度の日課とし、役割を持って生活していただけるよう努めている。共に活動し良い関係を築けるよう努め、感謝の言葉は忘れず伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に手紙を出し、情報提供・情報交換し、絆を大切にしよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり限りはあるが、利用者様との会話の中で馴染みの方や場所などを把握し、ドライブ等をして支援に努めている。	馴染みの人や場所を話の中で引き出すことに努めており、ドライブで出かけることに積極的に取り組んでいる。また、毎月の理容が新たな馴染みになることも多く、利用者によっては化粧品の購入などがその人の「馴染み」になっていることもある。馴染みの記憶が途切れないような支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のADLや認知症の状態、利用者様同士の関係等を把握し、同じ地域や共通の話題を提供し、職員が間に入りながら安心してくつろげる空間の提供に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族から電話や手紙を頂く事もあり、今後の支援・関わりに活かしている。施設替えした先の施設への情報提供も積極的にこなうようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望を把握して実現できるよう努めているが、意思を伝える事が難しい利用者様には、表情や言動等から今の思いを知るよう日々の関わりを行っている。	言葉で思いや意向を伝えられる方は数名で、表情や仕草から汲み取ることが多くなっている。生活歴や家族からの話も参考に、理念に沿って本人がやりたいことを、支えながらできるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等の情報を見て、これまでの生活歴を崩さないように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、業務日誌、カンファレンス、申し送り等で現状把握に努めている。バイタル測定時等、体調確認を口頭でも行い、日々の変化に気付けるよう努めている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム満天 1号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の担当職員がケアプラン原案を作成、その後、職員でカンファレンスをおこない本ケアプラン作成をしている。ご家族にケアプランの同意をいただく時には必ず意向を書面にて記入していただいている。	短期は3ヵ月、長期は6ヵ月から1年を目安に作成している。「心と身体に関連シート」で評価し、担当が原案を作り、他の職員がカンファレンスで意見を出し合い、本人、家族の意向を確認してのプランとなっている。家族の意見・意向を伺う欄が設けられているが、意見等が加筆されることはほとんど無く、了解を得ての計画実践となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子・行動を記録に残して、申し送りの際、職員間の共有を図っている。アセスメントはセンター方式を利用し、状態の変化を見逃さず計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け、個々の希望に添ったサービスの提供に努めている。 コロナ禍の影響で出来ない事が多いが、利用者様のお誕生日の際、利用者様へ手作りのバースデーカードをお渡しし、細やかながら支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、利用者様一人ひとりの安全は確保できているが、豊かな暮らしを楽しむという状況においては不足していると感じられる。今後、地域の行事参加、馴染みの店や場所での触れ合い、その人らしく安全で豊かな暮らし、生きがいを持って頂けるよう努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から継続したかかりつけ医へ受診している。状態によって適切な医療機関に変更はおこなっているが、ご本人、ご家族の希望を優先し対応している。	以前からのかかりつけ医に引き続き受診する方がほとんどである。医療機関にはすべて職員が同行している。家族が医療機関で待機している場合もあり、面会の機会にもなっている。健康管理などのため、隣接の老健から看護師が毎週来所している。必要に応じて訪問歯科もあり、必要な医療が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する同法人の老健施設看護師が週に一度定期訪問して下さり相談・助言を受けている。急変時にもすぐに連絡が取れる体制を取っており、状態に応じた適切な対応が出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、ご家族や病院関係者と情報交換しながら、病状や状況を確認し早期に退院できるよう対応している。 施設での生活の様子等、なるべく細かく情報提供し利用者様がスムーズに入院生活を送れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時はもちろん、健康状態の変化に応じて、施設で出来る事出来ない事の説明をおこなっている。状況を見ながら同法人の老健、特養を勧める場合もある。	過去に1回の看取りはあるが、近年の事例は無い。飲み込みが困難になっているなどの利用者の状況に応じて、家族に特養や老健を勧めている。もしもの場合には町立国保病院の協力をもらうこととしているが、現実の体制としては難しい状況にあり、家族には説明して了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時のマニュアルは見えるところに置いてあるが訓練は不十分だと感じている。初期対応の訓練も受けているが不安もあり、訓練を重ね実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施しているが、コロナ禍に伴い地域住民、消防団、消防署等の参加は行っていない。 今後は、地震等の訓練もおこなっていききたい。	ハザードマップ上、当該地域に水害・山崩れ等の危険はない。年2回火災想定避難訓練を実施し、地域の自主防災組織、支援隊の協力をいただいている。食料等の備蓄、自家発電装置も備えており、万が一の場合には、隣接する老健施設に避難することができる。	通報先の再確認、避難指定場所の訪問確認など、災害対策としての事前準備を行うことが望まれます。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に意識し、羞恥心にも配慮して対応している。 自尊心やプライバシーを損ねないよう、ご本人の立場に立って対応するよう意識している。	理念に沿って、言葉遣いには特に注意している。本人の気持ちに気付くこと、羞恥心に配慮することなどを最優先としており、異性介助への配慮は欠かさない。人生の先輩である利用者から松茸の下処理のことを伺ったり、野菜の作付の助言をいただくこともある。	
----	------	--	---	---	--

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム満天 1号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誘導するのではなくご本人に選択してもらえるように意識している。2択での選択や利用者様に問い掛けて行う時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースに添った支援を心掛けているが、職員側の業務を優先してしまう時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する時はもちろんだが、施設内でも季節に合った洋服を着用できるよう支援している。朝の整容時、立位不安定な方には鏡やクシをテーブルに準備しておこなっていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きなどは利用者様にも手伝っていただき、その方の能力を生かした支援を心掛けている。誕生会ではケーキ作りを職員と一緒にこなしている。	事業所ではご飯を炊き、汁物と副菜は隣接する老健に取りに行っている。行事食やおやつは事業所内で作ることもあり、希望を聞いて「うきうき団子」や「みみこもち」が用意されることもある。後片付けを自分の役割として行う利用者もあり、職員と一緒にいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が気になる利用者様は個別に管理している。水分や食事摂取量が不足している利用者様は、ご家族に相談し、この方の嗜好に合わせて提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導、介助をおこなっている。就寝前には義歯をお預かりし消毒をおこなっている。うがいが困難な方には、緑茶を勧め口腔内の汚れを除去している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時リハビリパンツ利用されていた方も、排泄パターンを把握し、定期的な声掛け誘導をおこなう等し布パンツ使用率がアップしている。	日中は全員がトイレを利用し、夜間はポータブルトイレを利用する方もある。日々の支援によって、入居後に布パンツ使用、自立に改善した例もあり、本人だけでなく職員にとっても嬉しい結果が出ている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム満天 1号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや牛乳を毎日提供している。 水分補給、体操、歩行運動、腹部マッサージ等をおこない、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	外出や通院などある時は、前日に入浴していただけよう支援している。ご本人の体調や入りたい時間帯、順番を考慮し、希望に沿えるよう努めている。	入浴は3日に1回を基本とし、希望により柔軟に対応している。希望によって午前や午後、翌日ということもある。入浴剤の色、香や音楽を楽しむ方、介護職員との会話が弾む方、湯船にゆったりひたる方等、それぞれに良い時間を過ごすことができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムに合わせて対応している。 快適な環境で眠れるよう、事前に居室の温度調整やカーテン等で環境を整えている。居室へ行くのを嫌がっている場合は、無理強いせずソファで休んでいただくなど、柔軟な対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助の際は、飲み込むまで見守りを忘れないように気を付けている。 薬の個数や内容の変更時にはノートや付箋などを活用し、職員全員が周知できるようにしている。 服薬困難な利用者様には、散剤に変更していただいたり、トロミを使用し内服しやすい工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状では十分とは言えないが、施設内で出来る事は工夫している。年間行事、誕生会、余暇活動(トランプ、オセロ、計算等) 洗濯畳み、食器拭き、好みのテレビを視聴する等々、日々の習慣が継続出来るよう支援している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム満天 1号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年のお盆は外出制限が少し緩和された為、お互いに感染予防をおこなってもらった上で、ご家族と一緒に法事やお墓参りに出掛ける事ができた。 受診の帰りにご本人の希望する場所に立ち寄るなどした。 外出する代わりに施設内でそれに代わる行事を工夫しておこなった。(いちご狩りなど)	散歩しながらのゴミ出しの手伝いなど、周辺の散策が日常的に行われている。感染症に気を付けながらのドライブに力を入れており、花見には八戸や久慈市内に行くことが多い。外出先でのソフトクリームを楽しみにしている方もあり、弁当を買ってきて食べることもある。お盆には家族の協力も得て、帰宅、墓参なども実現している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方がほとんどの為、お金は所持されません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族から贈り物が届けられた時は、それをきっかけとして電話し、ご本人とお話してもらっている。ご家族へ向けたお手紙を書く支援もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁などに季節の絵や折り紙等で作った作品を飾り、季節感を取り入れている。 ソファを多く配置することで、自由に談話等が出来るようにし、楽しく安心して過ごしていただけるような雰囲気をつくっている。	共用空間のリビングには黄色のソファやテーブルと椅子、テレビなどが置かれ、エアコンや空気清浄機、加湿器などでゆったりとした快適な環境が保たれている。利用者と職員で作った塗り絵やはり絵が飾られ、季節によって鯉のぼりや七夕飾りが展示されるなど季節感にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に名札をつけ、相性の良い利用者と自然に並んで座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の大切な物、使い慣れた物を持ってきていただき、安心して生活できる環境にしている。	居室にはベッドと洗面台が備わり、利用者は各自テレビ、衣装ケース、家族写真、位牌などを持ち込み居心地よく過ごせる工夫が図られている。床暖房と加湿器で、これからの季節は暖かく過ごしやすい環境が確保されている。	

令和 5 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム満天 1号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を迷ってしまう利用者様には、大きく名前を記入し表札にしている。トイレやお風呂も同様に分かりやすい表記をしている。 動線確認を普段からおこない、予測できる危険は取り除くよう努めている。		